

CASBEE-建築(新築)2024年版
(仮称)ロイヤルプロ城陽 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

スコアシート		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.7
Q1 室内環境			0.40		-	2.9
1 音環境		2.6	0.15		-	2.6
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.40		-	
1.2 遮音		3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能	-	3.0	1.00		-	
2 界壁遮音性能	-		-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-		-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-		-		-	
1.3 吸音	-	1.0	0.20		-	
2 温熱環境		2.6	0.35		-	2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50		-	
1 室温	-	3.0	0.50		-	
2 外皮性能	-	3.0	0.17		-	
3 ゾーン別制御性	-	3.0	0.33		-	
2.2 湿度制御	-	1.0	0.20		-	
2.3 空調方式	-	3.0	0.30		-	
3 光・視環境		3.0	0.25		-	3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.50		-	
1 昼光率	-		-		-	
2 方位別開口	-		-		-	
3 昼光利用設備	-	3.0	1.00		-	
3.2 グレア対策			-		-	
1 昼光制御	-		-		-	
3.3 照度	-		-		-	
3.4 照明制御	-	3.0	0.50		-	
4 空気質環境		3.7	0.25		-	3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質	建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆を全面的に採用。	4.0	1.00		-	
4.2 換気		3.0	0.30		-	
1 換気量	-	3.0	0.50		-	
2 自然換気性能	-		-		-	
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.50		-	
4.3 運用管理		4.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視	-	3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御	全館禁煙を確認済み	5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能			0.30		-	3.0
1 機能性		2.8	0.40		-	2.8
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40		-	
1 広さ・収納性	-		-		-	
2 高度情報通信設備対応	-		-		-	
3 バリアフリー計画	-	3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性		2.0	0.30		-	
1 広さ感・景観	-	3.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース	-	2.0	0.33		-	
3 内装計画	-	1.0	0.33		-	
1.3 維持管理		3.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計	外装・内装を防汚性・耐候性の高い材料を採用	4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30		-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。	5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	主要設備機器の更新必要間隔30年以上	5.0	0.20		-	
2.4 信頼性		2.2	0.20		-	
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備	-	1.0	0.20		-	
3 電気設備	-	3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法	-	1.0	0.20		-	
5 通信・情報設備	-	3.0	0.20		-	

3	対応性・更新性		3.4	0.30	-	-	3.4
	3.1 空間のゆとり		4.6	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3	4.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.1
1	生物環境の保全と創出	外緑化指数12%	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率63% 緑被率8.0%	2.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.1
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制	[BPI][BPI _m]=0.88	4.2	0.20	-	-	4.2
2	自然エネルギー利用(直接利用)	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEI _m]=0.68	2.9	0.50	-	-	2.9
	集合住宅以外の評価	-	2.9	-	-	-	
	集合住宅の評価	-	-	-	-	-	
4	効率的運用に向けた取組み		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価	-	3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.40	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.40	-	-	
	4.3 非化石エネルギーの導入の拡大	-	3.0	0.10	-	-	
	4.4 コミッショニングの推進	-	3.0	0.10	-	-	
	集合住宅の評価	-	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.7
1	水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水	-	3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	-	3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60	-	-	2.6
	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別可能となっている。	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		2.7	0.20	-	-	2.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避	-	2.6	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	2.0	0.33	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.33	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.33	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出量は77%	3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比36% Rw=4.49	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	適切な量の自転車置き場、駐車スペースが確保されている	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	0.33	-	-	
	2 振動	-	3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭	-	3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	チェックリストの過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

ASBEE-建築(新築)2024年版

(仮称)ロイヤルプロ城陽 新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0	-	-	○	-	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0	-	-	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	-	-	2.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミッシュニングの推進	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 給排水等再利用システム導入の有無	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0	-	1.0	-	3.0	3.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能															
窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -															
U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -															
住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -															
壁光率 0.0%															
自然換気有効開口面積率 0.0%															
3.1.1 昼光率															
4.2.2 自然換気性能															
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性															
1.1.2 高度情報通信設備対応															
1.2.1 広さ感・景観															
1.2.2 リフレッシュスペース															
2.2.1 躯体材料の耐用年数															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔															
3.1.1 階高のゆとり															
3.1.2 空間の形状・自由さ															
3.2 荷重のゆとり															
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出															
3.2 敷地内温熱環境の向上															
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制															
2 自然エネルギー利用(直接利用)															
3 設備システムの高効率化															
非住宅部分															
集合住宅															
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用															
2.5 持続可能な森林から産出された木材															
3.2.1 消火剤															
3.2.2 発泡剤(断熱材等)															
3.2.3 冷媒															
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善															
見付面積比 36% 隣接間隔指標Rw 4.49															
地表面対策面積率 7.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%															
見付面積Sb 281㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 49.7 m 基準高さHb 15.6 m															
緑地 336㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡															